

## 米原公民館の考え方と経過説明

平成17年11月17日

米原公民館 館長 知花 忠

### この文書の目的

米原リゾート開発について多くの報道がなされ、インターネット上も含め様々な論議が巻き起こっております。しかしこれまでのところ、公民館員以外の住民・または外部からの情報ばかりが発信されており、残念ながら憶測や間違った情報も多々見られます。この問題について正しく理解していただくためには、米原公民館としても発言をしていくべきと考え、この問題の経過と現状、そして米原公民館の考え方などを説明したいと思います。

### これまでの経緯

#### ① 代表者会議について

平成17年7月22日に大和ハウス工業㈱より「(仮称)米原リゾート開発」の概要説明が行われました。今後の企業との話し合いにあたり米原住民全員で行うのが本意ではありますが、米原住民全員が常時出席することは難しく、限られた時間を有効に使うために、住民過半数の同意を得て、代表者会議を行うことになりました。公民館員から5名、移り住んできた住民から5名、公民館館長を含めて11名のメンバーで構成しました。メンバーには賛成の人・反対の人・どちらとも決めてない人が混在しています。反対派世話人の早川氏はぜひ代表に入ってほしいとこちらから要請し、承諾してもらいました。9月14日に初の代表者会議を開き、4名の役員を選出しました(資料A参照)。

その時の話し合いの主な内容は以下の通りです。

- \* 選出された代表者は地域住民の代表者だという自覚を持ち、わけへだてなく地域のことを考える。
- \* 地域住民はいつでも代表者を通じて企業に対する意見・要望を伝えたり企業との話し合いの状況を聞くことができる。
- \* 米原地域住民は会議の傍聴ができる。
- \* 企業側との話し合いの内容は地域住民から投書を募り、その内容をもとに話し合いをする。

② 9月25日に公民館に投書箱を置き、米原地域住民に投書を呼びかけました(資料A)。9月30日に開封する際の住民の出席をよびかけましたが、出席した住民は1人でした。全部で33通の投書があり、代表者会議役員(書記である早川氏)が集約し、全17ページにおよびました。集約した賛否両方の投書を大和ハウス工業㈱に提示することについて代表者の同意を得て大和ハウス工業㈱に提示しました。11月10日、企業と代表者との初の会合を持つ予定でしたが、流会となり現在に至っています。

新聞報道もされたこの11月10日の件につきまして若干述べておきたいことがあります。まず11月9日午前中の時点で「明日米原で密室会議が行われる」との情報が既にどこからか流されており、一部住民の耳に入っております。しかし11月10日に代表者会議があると第三者に伝えたのは公民館館長です。密室会議をするつもりなら日程を第三者にもらすでしょうか。一部複数の代表者にこの日程を伝えるのが遅れたのは事実ですが、これは

故意ではなく単純ミスによるものです。また私が11月4日付けで出したこの代表者会議の案内(資料B)には「代表者会議と企業との初顔合わせ」である旨が明記してあります。遅れたとはいえ11月9日夕方には早川氏もこれを見ておりますし、単純ミスであったことも謝罪説明し了解を得ております。

11月10日当日になり事態は更に不可解なものとなりました。顔を見たこともない大勢の人々が挙げて傍聴をもとめ公民館に押し掛けてきました。米原地域在住の住民が同様に傍聴を求めましたが、この米原地域住民に対して傍聴を断ったのはこちらの間違いでした。それについてはこの場で認め謝罪します。しかし米原在住でない人々については、私有地である公民館敷地に無断で入る無礼もさることながら、突然の事態に我々は気が動転し平静に対処できなかったことは事実です。この群衆の中には、当日の出来事の正しい認識を持たないまま集められた人もいたという伝聞もあります。狭い島ですから、隠れて事を進めても数日中にはどこからともなく真相は見えてくるものです。ですから我々も秘密裏に企業と事を進める気はありません。

#### 今後の代表者会議のあり方

まず、一部で誤解があるようですので明らかにしておきたいのは、代表者会議は米原地域住民総意としての最終決定権を持つものではありません。企業による住民説明会でもありません。住民説明会は企業が別途主催するものと考えます。反対派住民からは代表者会議そのものの存在についての疑義もでておりますが、9月30日に米原地域住民から集めた質問・意見に対する回答も企業から聞いておらず、公民館としては今後の話し合いを進めるにはこのような組織が必要であると考えます。ただし会議としてはあくまでも賛成・反対どちらでもなく中立の立場で話し合いにのぞむことを明言します。代表者会議および代表者と企業との話し合いは米原地域住民は傍聴できますが、それ以外の地域に住む人々については原則的にはお断りします。米原地域外の皆さんへの対応は大和ハウス工業(株)ならびに行政が責任を負うものと考えます。米原地域住民の代表者会議および代表者と企業との話し合いにおける発言については、企業に対する質疑時間を設けます。また代表者会議開催の日程については米原公民館に事前に掲示してお知らせします。

#### 米原公民館の考え

現在米原が大勢の人に愛される住み良い美しい村となっているのは、53年前に電気・水道はもちろん、道さえないこの地に渡り、マラリアと闘いながらジャングルを拓き一からこの村を作り上げた先達のおかげであります。我々は米原の美しい自然を愛しており、これ以上の自然破壊を望むものではありません。しかし今回問題になっているホテル建設予定地は30年余前に民間企業に渡って以来次々と企業間で転売されて今日にいたっており、我々の希望だけで用途を決められるものではなく、この間ずっと荒地地となったままで、不法投棄が後を絶ちません。

また十数年前に、マスコミも騒ぎましたある宗教団体が千人以上でこの米原に来たことは住民の記憶にはまだ新しいものです。当時は法に触れていないということで行政も警察も手を出すことはできませんでした。あのような恐ろしい思いは二度とたくありません。公民館としては眼前の問題だけにとらわれず、この米原がどのような道を歩めば将来にわたり住み良い地域となるかを、住民で考えていきたいと思っております。